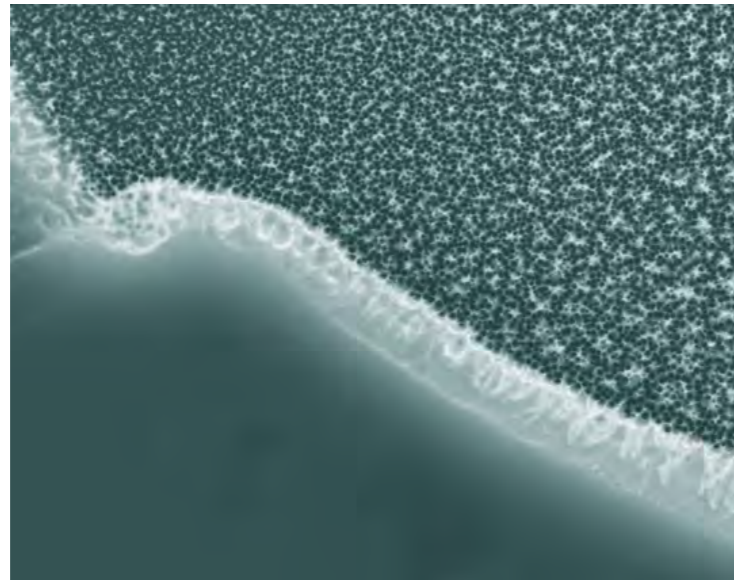




アーティストック・サイエンス・ フォトコンテスト受賞作品決定



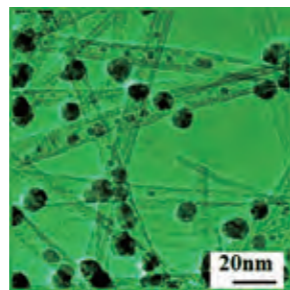
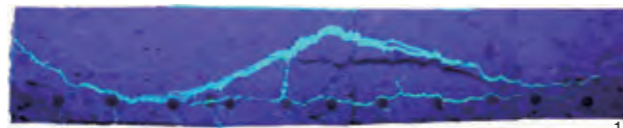
○大賞
「米山の星空」

神は細部に宿ると言われます。アーティストック・サイエンス・フォトコンテストは、研究を行う中でふと現れる、研究を行う者だけが美を公開してもらい、研究の面白さ、やりがい共有し共感することを目的として、てくみゆとVOSの共同企画により開催されました。その大賞・入賞作品が決まりましたので報告いたします。

教員から5作品、学生・博士研究員から16作品の合計21作品の応募があり、9/18～19の技大祭期間中てくみゆに展示され、入場者による一般投票480票と、10/8のてくみゆ・VOSの合同選考委員会での審査により、大賞1点、技術賞・科学賞各2点、選考委員長特別賞及びVOS賞の、合計7作品の大賞・入賞作品が選ばれました。

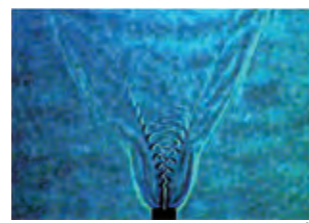
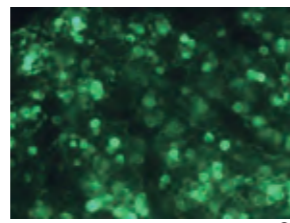
大賞は寺内雅裕さん(材料工学専攻D1)の「米山の星空」です。カーボン材料にプラズマエッチング処理をして得られた画像で、レジストでマスクされた領域を山肌に、プラズマ処理による粒子の粒立ちを星空に見立てた作品で、単彩の墨絵にも通じる美しさが高く評価され、選考委員全員一致で大賞に選ばれました。

大賞・入賞作品には、賞状と副賞が授与されます。大賞入賞作品のうち、6点は学生からの応募作品となり、やはり研究の面白さは若い感性により鮮やかに映えることを認識させられました。若くVitalityに溢れる世代の、Originalな研究から得られる美を、作品に仕立てるServicesによって支えられたコンテストでした。今回、高いレベルの作品が多数、応募されたため、来年度以降も開催することを検討しています。研究中に現れる美を見逃さず、ぜひとも次回応募して下さい。



○技術賞
1.「闇夜に灯る破壊の残滓(ざんし)」
2.「大きな敵から身を隠せ!」

○科学賞
3.「Yeast Firefly(酵母ホタル)」
4.「分岐する燃料噴流」



編集後記

▼ 本学の学生は、日々勉学や研究活動に励んでいます。今回の特集を通して様々な課外活動でも活躍し、キャンパスライフを有意義に過ごす学生の様子を知ることが出来たと思います。彼らの活気や熱意、様々なことに対する好奇心は、自らの成長に貢献するだけでなく、大学全体の活性化や未来社会の活力に繋がる大きな力になると思います。今後の彼らの活躍や成長にもご期待下さい。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.160 [平成22年11月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会[総務部 総務課]
◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。
〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000
E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

VOS

VITALITY ORIGINALITY AND SERVICES

長岡技術科学大学 広報

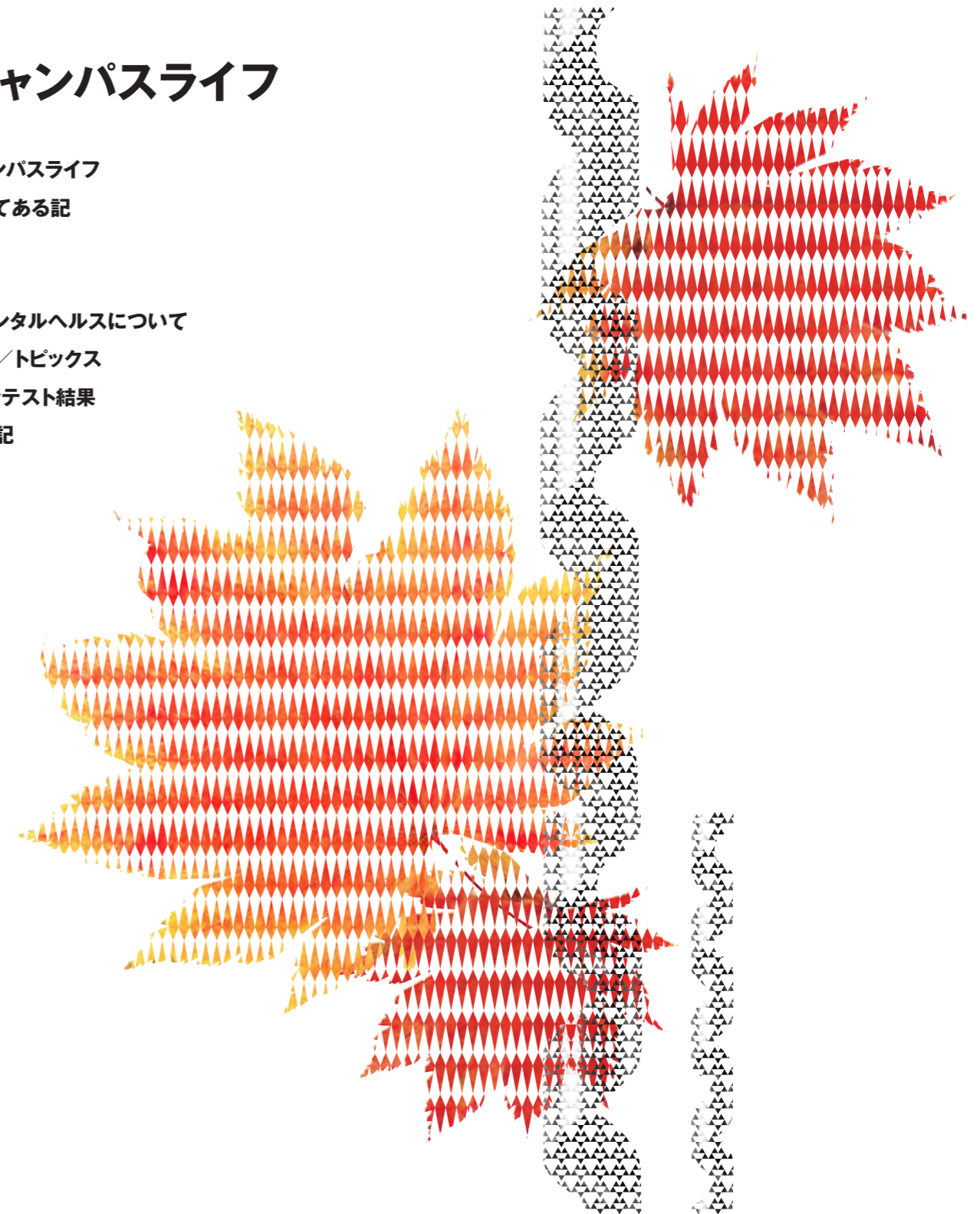


NO.160
2010.November

特集 技大キャンパスライフ

CONTENTS

- 02_ 技大キャンパスライフ
- 10_ ギダイみてある記
- 11_ 就職情報
- 12_ 行事報告
- 14_ 学生のメンタルヘルスについて
- 15_ 技大の樹/トピックス
- 16_ フォトコンテスト結果
／編集後記



技大キャンパスライフ

本学の学生は、勉学や研究は勿論、クラブ・サークル活動やボランティアなど様々な場面で幅広く活躍しています。本号の特集「技大キャンパスライフ」では、研究の成果発表や課外活動などを通じて「外」へ情報を発信している学生の活動に焦点をあて、国内外で活躍する彼らの様子を紹介します。

機械創造工学課程・専攻

◆ いまはむかし、たたら吹きという技術ありけり。



機械創造工学専攻 1年
(秋田高専 機械工学科出身)
村井 慶之介
YOSHINOSUKE MURAI

まず、「たたら」と話した時どれほどの方に理解を示していただけのでしょうか？

たたら【踏鞴】 ①足で踏んで空気を吹き送る大きなフイゴ。地踏鞴。<神代記(上)訓注> ②「たたらぶき」の略。広辞苑にはこのように記述されていますが、ここで私が述べる「たたら」は②に該当し、日本に古来より存在する和鉄製錬法のことを指します。

自然界には不純物が混じった状態で鉄が存在しており、これを一度溶かし鉄の純度を上げることを製錬といいます。この時の精製物が「鋼」です。現代の製鉄は鉄鉱石から鋼を作るのに対して、たたらによる製鉄は砂鉄と木炭

でより良質な鋼を作ることを目的とします。私が所属するたたら部では新潟・柏崎の海岸で採集した砂鉄を使い、大学構内の中庭で実際にたたらによる製鉄を年に数回行っています。過去数年のデータや炎の色を見て、毎回の砂鉄と木炭の投入量、送風量を判断しますが、最適な状態を維持することは非常に難しく必ず鋼の塊になるというわけではありません。

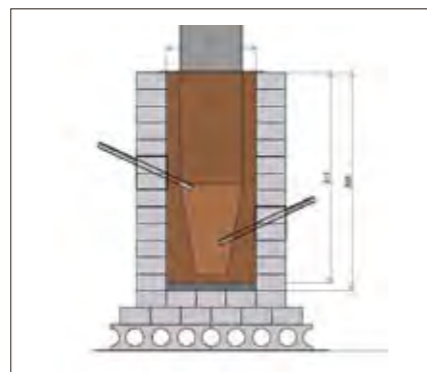
最近になりようやく目標に近づきつつあります。いつの日か、玉鋼と呼ばれ日本刀の原材料となる最高品質な鋼を生み出すのがたたら部の目標です。どうです？「たたら」に興味がありますか？



砂鉄と木炭の投入



製鉄終盤、煙突を外し炉を解体



たたらに使う炉のイメージ図



製錬された鋼の冷却

電気電子情報工学課程・専攻

◆ キャンパスライフの隠し味



電気電子情報工学課程 4年
(一関高専 電気情報工学科出身)
鈴木 晶子
AKIKO SUZUKI

みなさんは長岡技術科学大学にどのようなイメージをお持ちでしょうか？技大は研究だけではなく、サークル活動も非常に盛んです！私は「悠久太鼓愛好会つるかめ会」に所属しています。私達は太鼓の演奏を通して、長岡市内を中心に地域交流を行っています。太鼓の魅力は心に響く音です。その音はとても力強く、私達もそれを体で感じながら演奏しています。また、演奏後にいただく温かい拍手や笑顔は私達の元気の源です。太鼓という日本の文化を通して、人との繋がりをもてることを私は誇りに思っています。

また、私は「長岡技術科学大学ロボコンプロジェクト」のメンバーとして、6月に行われたNHK大学ロボコンに出場しました。今年は「ロボ・ファラオ ピラミッドを築け」というテーマで、3つのピラミッドを完成させる競技でした。チーム名は「越後一会」。手動マシン「三尺」、自動マシン「天地人」、「米百俵」、「フェニックス」の合計4台で出場しました。結果は惜しくもベスト8でしたが、仲間と過ごす時間はとても刺激的で、毎日が達成感で溢れています。私は太鼓とロボコンを通して、最高のキャンパスライフを送っています！



自動マシンフェニックスと一緒に



あぶらげんしんと長岡ロボプロ応援団！



長岡祭り前夜祭の百人太鼓にて



チーム越後一会のマシン集合！



我らつるかめ会！

材料開発工学課程・専攻

学会発表



材料開発工学専攻 2年
(群馬高専 物質工学科出身)
伊井 清人
KIYOTO II

私の所属する光・電子セラミックス研究室(以下OEC研)は毎朝7:50から始まるゼミと名前が示すとおりの多様な研究分野、そして活発な学会発表で有名な研究室です。

今回はこんなOEC研の学会発表について書きます。といっても、学会発表は撮影、録音などが禁止されており、学会発表の写真はありません。発表後のお楽しみ(飲み会)の風景のみです。そのため、今回は学会発表とその後の飲み会についてすこし書きます。

OEC研の学生は主に年3回の学会発表を行います。私もこれまでに7回の学会発表を行っています。人によっては一回の学会で3件の発表を行う人もいます。そして、このよ

うにしっかりと研究を行い、学会発表を行った後は、お楽しみの“学会飲み”です。学会は毎回様々なところで行われるため、土地の名産を着にその土地のお酒が飲めます。実験や発表練習などの苦勞が、このとき全て報われる気がします。そして、発表が終わったという達成感と開放感で、皆盛り上がります。人によってはこのために学会発表するといっても過言ではない?かもしれません。もちろん、私は違います。学会発表は学業のためです。はい。

このように飲み会だけでなく、学会発表に向けて学生は研究もしっかりやっています。



緊張する著者 発表後と発表前が表情で分かります



研究室全員での発表練習の風景



学会で行った長崎の町並み

建設工学課程・専攻

共同実験を経て



建設工学専攻 修士2年
(近畿大学高専 建築システム工学科出身)
西 剛広
TAKEHIRO NISHI

私は建設構造研究室に所属しています。私の研究室では、橋に関わる解析、実験、技術開発などの研究を行っています。この中で私は、企業と共に延長床版について研究を行っています。

橋は、年間及び昼夜の温度変化により、伸縮を繰り返します。この伸縮を吸収するため、橋には伸縮装置が複数設置されています。この伸縮装置は橋をいくつかに分けた部分のことで、この隙間によって伸縮を吸収します。しかし、この隙間から雨水などが橋の下面へ流れ込み、橋の劣化・損傷の要因になります(図-1)。延長床版とは、この伸縮装置を橋上には設置せずに土工部へ移設、または、伸縮装置自体をなくしてしまい、伸縮装置から

の漏水による損傷・劣化を抑制しようというものです。

連日猛暑が続いたこの夏。高さ2m、幅2m、長さ11mという大型試験体の製作から実験までを、複数企業と協力して行いました。今まで解析をしてきた私はあまり実験に詳しくなく、戸惑いと不安ばかりでした。実際にミスなどもありましたが、企業の方々と綿密な打ち合わせ、助言やフォローなどで実験までスムーズに進めることができました。実験は、開始から終了まで平均8時間を要しましたが、研究チームの協力によって無事、実験を終えることが出来ました。この実験から、少し早い社会経験と、よい夏休みを得ることが出来ました。



集合写真

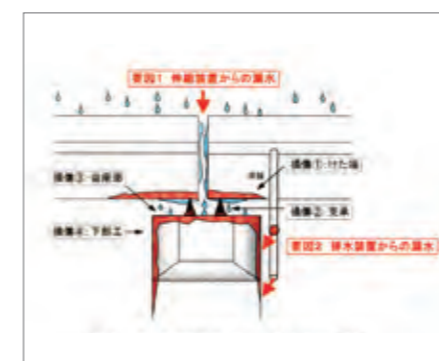


図-1 桁端部付近の損傷とその要因



試験体準備(コンクリート打設)



マジメな後輩達

環境システム工学課程・専攻

◆ チャレンジできるチャンスがある



環境システム工学専攻 2年
(奈良高専 物質化学工学科出身)
佐藤 雄哉

YUYA SATO

「ボーイスカウト」についてご存知でしょうか。私は、小学校1年生からボーイスカウト活動に参画しています。聞いたことがあっても中身はよく知らないという方が多いかと思えます。一般的に言われる「ボーイスカウト」とはボーイスカウト運動のことを指し、野外活動やグループ活動を通して社会に貢献できる青少年を育成することを目的とした世界的な社会教育運動です。世界各地160の国と地域で約2800万人が運動に参画しています。
(<http://www.scout.or.jp/>)

もともと私は出身地である奈良県で活動していましたが、本学進学後も継続して参画しています。本学工学部へ入学直後の2006

年夏にはイギリスで開催された「第21回世界スカウトジャンボリー」に日本代表派遣員の一人として参加しました。また、今夏には静岡県朝霧高原で開催された「第15回日本ジャンボリー」に参加する機会を得ました。

全国各地、また、世界各地のスカウト達と1週間を越える期間テント生活で寝食を共にする経験はとても貴重なものでした。記事までもなく、本学教職員の方々や同級生たちの理解と協力があったからこそ取り組めたことです。勉学以外にも自分がチャレンジしたいことを応援してくれる環境が本学にはある！と自信を持って言えます。



富士山麓での快適なキャンプ生活



海外大会では様々な国のスカウトと交流



イギリスにあるボーイスカウト発祥の地



見渡す限りテントだらけの大会会場

生物統合工学専攻

◆ 研究生生活における学会の重要な役割とは



生物統合工学専攻3年
(新潟県立小千谷高等学校 普通科出身)
上村 直史

NAOFUMI KAMIMURA

私たち大学院生は日夜血の滲むような努力で研究を行っています。しかし、これら研鑽の賜物は他の研究者や知識人に発信されなければ正当な評価を受けることは叶わず、無価値と同義になってしまいます。学会発表や論文投稿は他の研究者に自分の研究成果を公表し、その価値を判断してもらうという研究者にとって重要なイベントなのです。

特に学会は、同じ分野の研究者が一堂に会するので自分の研究を大勢の研究者にアピールすることができますし、もしかすると自分の人生を左右するような人物やアイデアと出会えるかもしれません。私の場合は、研究発表はもちろんのこと、それ以外の時間でも多くの研究

者と積極的にコミュニケーションをとり、自分の研究成果や研究に対する情熱について力水(お酒)を補充しながら熱弁してきた結果、研究者として生きていく上で非常に重要な人脈や信頼を得ることに成功しました。

学会のもう一つの醍醐味は観光です。学会開催地の特産品・名物料理に舌鼓を打ち、学会の合間に名勝や観光スポットに足を伸ばすことは、人生を豊かにする(豊富な話題・ネタを保有する)だけでなく、精神をリフレッシュしてモチベーションの維持・向上に繋がります。そして私たちは一時の休息と明日を生きる糧を得、再び研究の毎日に没頭していくのです。



気迫の発表!カナダでの国際学会



日本農芸化学会で人脈づくり



イタリア料理に舌鼓



雄大なナイアガラの滝を目前で見ちゃおうツアーに参加して気分をリフレッシュ!!

経営情報システム工学課程・専攻

◆「可能性は無限大～ベンチャーサークル～」



経営情報システム工学課程 4年
(一関高専 機械工学科出身)
境 裕

YUTAKA SAKAI

ベンチャーサークルでは、学校での授業や研究ではなかなか得ることのできない社会性や主体的な行動の仕方を学ぶとともに、将来起業するに当たって必要な視野と人脈の拡大、知識の習得を目的として活動しています。活動の一例として、使われなくなった先輩の教科書を後輩に有効活用してもらうリユースプロジェクトがあります。このプロジェクトでは、実際に購買活動を行うことでモノ・お金の動きを実践的な経験を通して学習することができます。また、ゲームを使ってお金の流れを学んだり、バーチャル株やFXを部員同士で

競いながらやっていたりと、楽しみながら活動することをモットーとしています。他にも、各々が自由に企画を持ち込むこともできるので、やりたいことはなんでもできてしまうサークルです。最近では、地元地域で開催される学生ビジネスアイデアコンテストに参加する予定で、新たなアイデアをみんなで話し合っています。企業見学に行くことで企業の方とのつながりも持てるので、とてもやりがいのある企画です。ベンチャーサークルで培った経験は今後の就職活動でも有利に働くこと間違いなしです!!



キャッシュフローゲームでお勉強中



リユースプロジェクトの様子



遊び心だって忘れません

システム安全専攻

◆——社会人学生生活——



専門職大学院 技術経営研究科
システム安全専攻
小島 憲太郎

KENTARO KOJIMA

社会人を対象とする専門職大学院 システム安全専攻の生徒は、普段会社での仕事をもち、週末は大学生という二つの顔を持ち、若い学生の多い大学の中では、異色のおじさん集団を形成しています。

大学までの学生時代では、勉強はもうたくさんという思いでしたが、社会人になって何年か経つと、講義スタイルで勉強する機会は殆どなく、今は新鮮で刺激的な毎日を送っています。

そんなおじさん集団、「安全」という共通項はあるものの、海上保安庁の船長さんや原子力保安院など官公庁の方、キャリアばりばりの会社のキーマン、大学、高専など学校の先生、本学で学びますます自社発展の野望を持つ自営業の方など生徒のバックボーンは千差万別。国内で唯一安全をテーマとした専門職大学院ということで、都内・長岡近郊以外からも通学し、週末はホテルを取って長岡で。仕事で海外に行っても、海外からでも通学してきちゃう人もいます。仕事が絡んでいるとは

いえ、学業との両立でめちゃくちゃ多忙です。システム安全のクラスは、先生方はもちろん生徒も第一線で安全に関わっているプロ。講義で議論をするときは非常に活発な議論となり、知らず知らずのうちにヒートアップ。聞いているだけでも、そんな事例・考え方があるのかと感心し、なんとかついていかなければと日々刺激を受けています。

そんな濃い～講義を受けた後は、同級生や先生方とお酒のおいしい長岡や東京の地でお楽しみ会をすることもしばしば。大学に来ることによって得られる、仕事の延長線を越えた人たちと情報交換や、コネクションをつくれることは、私にとって貴重なリラクセスと経験の場にもなっています。

体力的、経済的にへろへろになることもあります。それ以上の良い刺激を大学、学生から受け、通学に協力してもらっているはずの周りの人たちにも励まされ、これからも周りを巻き込みながら更なるスパイラルアップ、安全文化の普及を目指したいと思います。



先生、OB、先輩も介して毎年恒例のシステム安全忘年会
この後先輩から4期生「誓いの言葉」を宣誓させられることになる



帰りの新幹線まで時間があつたので長岡市内の温泉に



先輩の海外インターンシップ発表を聞いた後、都内で昼食を

ギダイみである記

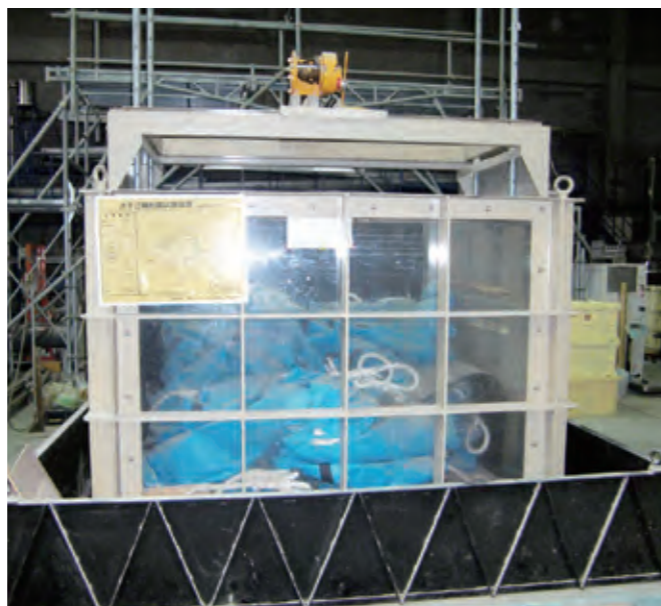
GIDAI
MITE
ARUKI

地盤工学研究室

土の強度と変形特性



一面せん断試験装置



水平2軸耐震試験装置

この研究室では地盤の解析と実験の両方をテーマとしており、土というキーワードを基に様々な研究を行っています。土は我々の生活にとってとても重要であり、地盤がしっかりしていないと構造物が成り立ちません。今回は土の強度の変形特性という観点から、液状化について詳しくお話を聞かせていただきました。

近年の中越地震などの大地震をきっかけに、今後来るべき地盤災害に備えた防災意識が高まっています。全ての構造物は地盤の上に成り立っていることから、地盤災害を防ぐためには、地盤に関する研究がとても重要で

す。地震などの影響により地盤に様々な力がかかった場合、液状化現象が起こります。液状化現象は、簡単にいうと固体として存在していた地盤が、様々な要因により液体状になるもので、地盤災害の大きな要因となる現象です。液状化現象は今まで砂土壌でよく起こると言われてきましたが、近年色々な地盤で起こることが分かってきました。そこで多種多様な組成の土塊を作製し、それに様々な力がかかることで、液状化現象に関わる様々なパラメータについて研究を行っていました。この研究室には様々な実験装置が揃っており、

国内でもトップレベルの技術を持って研究しています。またこれらのデータは実務に直接フィードバックすることができ、液状化現象に対応していない従来の設計法を見直すために非常に有効であると言えます。

先日行われた地盤工学会にて開催されたソイルタワーコンテストにおいて、初出場ながら高い技術力をもって総合優勝を成し遂げたそうです。私達が扱っている微生物とは異なり、とても大きなスケールで研究を行っているという点でとても興味深い研究内容でした。



中空ねじりせん断試験装置コントローラー



3軸圧縮試験装置



研究室を紹介してくれた学生
地盤工学研究室(杉本・豊田研究室)
建設工学専攻1年
須佐見朱加(和歌山高専)



ギダイみである記取材班
環境微生物工学研究室(福田研究室)
生物機能工学専攻2年
鈴木貴(鶴岡高専)(左)
微生物代謝工学研究室(政井研究室)
生物機能工学専攻2年
保坂大(秋田高専)(中)
後藤隆之(旭川高専)(右)

就職情報

Job information



理事・副学長／就職委員長
武藤 陸治

YOSHIHARU MUTOH

「就職支援への取り組み」

本学の就職状況は景気の動向に関わらず、就職率として98%を超える高い水準を維持しています。これは、全国の大学の中でも常にトップ10に入る水準で、就職に強い大学として雑誌にも取り上げられています。これには、高専自体の100%近い高い就職率、本学の実務訓練、活発な産学連携、卒業生の企業での活躍などが後押ししているものと考えています。しかし、自分が行きたいと思った企業にどの程度就職できているかという点においては、苦戦している面もあるように思います。この点を後押しするために、本学では就職支援の方策として、1. 就職ガイダンス(年8回程度)、2. キャリアガイダンス(年3回程度)、3. 学内合同企業説明会(年2回、合計300社程度)、4. 模擬面接講座(年1回、専門家による指導)、5. その他各種セミナー(年2回程度)を行っていますので、是非活用してください。本年度の就職支援事例として就職ガイダンスの内容を下表に示します。

現在多くの大学で同様の就職支援に加え、就業力関連科目の設置が進められています。就職支援はともかく、就業力関連科目は、本

未転倒な様に思います。就業力は全教育課程の結果として身に着くものであり、今よく言われる学士力を高めることこそが重要であろうと思います。学士力には人間が社会で生きていく上で身につけておくべき力も含まれています。例えば、経団連による「就職試験の際に企業が重視する点」に関する企業アンケート(2010.4)によれば、82%の企業が「コミュニケーション力」を挙げ、続いて61%が「主体性(意欲)」、51%が「協調性」、48%が「チャレンジ精神」を挙げています。「コミュニケーション力」には、相手の言うことを理解する力、自分の考えをまとめ伝える力、日本語のみならず英語での会話力などが総合して求められると思います。実務訓練などはそのための有効なチャンスですが、教科以外においてもボランティア活動、研究室での様々な活動など、普段からの意識と努力を期待したいと思います。

もちろん、就職先で人生が決まるのではなく、就職先でどのように取り組むかで人生が決まると思います。そのためにも学士力の向上と本学のモットー「VOS」の精神を目指してください。

平成22年度就職ガイダンス

	日時	内容
第1回	6月30日	就職活動の心構え ー内定の達人塾ー
第2回	7月14日	就活スタートアップ講座
第3回	7月21日	自己分析講座、職務適性テスト
第4回	9月8日	理系学生のための業界研究 ーやりたい仕事の見つけ方ー
第5回	9月22日	パネルディスカッション ー企業が求める人物像ー
第6回	10月6日	エントリーシート対策講座 ー人事担当者はここを見ているー
第7回	10月20日	面接・グループディスカッション対策講座 ー基本的知識と重要なポイントー
第8回	11月10日	内定者による就職活動経験談
第9回	12月1日	合同企業説明会について ー効果的な参加方法ー

行事報告

第30回技大祭を終えて

機械創造工学課程 4年
倉ヶ谷 翼
(富山高専 機械工学科出身)
TSUBASA KURAGAYA



去年のミーティングで私が委員長に選ばれたとき、まず純粋に嬉しさが込み上げて来ました。そして同時に大きな不安と驚きを感じました。高専で二年間学祭のスタッフを経験したことはありましたが、人を率いるような立場にはなっていたことが無かったからです。しかし、これはチャンスだとも考えました。社会に出て何かを作ったり、成し遂げようとするには人を



最前列右から6番目筆者

率いる力や組織の力が不可欠だからです。

そして、様々な困難を乗り越えて今年の技大祭を成功させることができました。快晴も手伝って大勢のお客様が足を運んで下さいました。模擬店、演武、ステージ企画は大成功で、常に歓声や笑い声が絶えない最高の技大祭でした。

技大祭は私に貴重な経験と多くの物をもた

らせてくれました。組織の仕組みや人との仕事の仕方を経験できたこと、そしてなにより最高のチームメンバーを得ることができました。

最後に技大祭にご協力頂いた協賛企業及びご来場頂いた皆さま、学生、教職員、技大祭に関わってくれた人すべてに深く感謝申し上げます。また来年会いましょう!!

第6回父母等懇談会

9月19日(日)に第6回「父母等懇談会」を開催し父母等約300名の参加をいただきました。

全体会では、本学の近況や進学・就職状況の説明を行った後、湯川准教授の公開授業「情報処理概論」が行われました。普段、学生に行っている授業内容のわかり易い解説で、父母の方々も熱心に聞き入っていました。

また、午後からの個別面談では、各課程の会議室等で学生の修学状況や就職の動向等について、面談を希望された父母等の方々や指導教員等との率直な相談が行われました。



第12回長岡国際祭り: Give LOVE a Chance!!



機械創造工学専攻 1年
留学生会長
ランディ・グイ・グアン・ファット
(マレーシア出身)
RANDY CUI GUAN FATT



例年同様、国際祭りが開催されました。今年のテーマは「Give LOVE a Chance!!」であり、留学生も、日本人も異文化に対してより深い興味を抱くようになることを目指しました。

そこで、留学生が出身国の料理、踊り、歌など、沢山の伝統的な文化のイベントを行

い、本学学生や長岡市民の皆さんにも見学・体験していただき、国際交流と親睦ができました。

この国際祭りの企画・開催が成功できたのは、一人の力ではなく、留学生会、技大祭実行委員の皆さんと力を合わせたおかげです。

いろいろな人との連携や調整、そしてチームワークの真の意味を改めて学ぶ機会にもなりました。貴重な経験として大事にしたいと思います。

最後に、ご協力していただいた皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

第22回むつみ会主催の外国人によるスピーチコンテスト開催



9月26日(日)、長岡商工会議所において日本語スピーチコンテストが開催されました。

長岡市大野勉副市長、長岡商工会議所細川恭一副会頭、本学新原学長の来賓挨拶の後、本学、長岡大学、国際大学に留学している学生及びその家族ら11人が、日本での生活や伝統・文化などについて、自慢の日本語でスピーチを行い、長岡市長賞には、本学の日本語クラスで日本語を学ぶロジャー・ア

クタさん(バングラディッシュ)が演題「祭り: 日本とバングラディッシュ」で受賞しました。

その他、長岡技術科学大学長賞、長岡商工会議所会頭賞、ライオンズクラブ賞、国際ソロブチミスト長岡賞、むつみ会賞などが各受賞者に贈られました。

審査委員長の本学の加納満准教授からは、審査のポイントとともに、スピーチは甲乙付けがたく、明日への糧となるよいスピーチだったとの

講評がありました。

また、スピーチ終了後にはアトラクションとして、紫苑コーラス名誉指揮者である小林英夫さん、齋藤順子さん(ピアノ伴奏)による国内外の曲目が披露され、スピーチコンテストに花をそえました。

表彰式の後、開催された交流会でも数多くの市民の方々や親睦を深め有意義な一日を過ごしておりました。

体育・保健センターより

学生のメンタルヘルスについて

体育・保健センター長(学校医, 産業医)

三宅 仁

HITOSHI MIYAKE



アスペルガー症候群

1. はじめに

最近、アスペルガー症候群という言葉を知ったことがあるでしょうか？ 広くは発達障害あるいは学習障害という障害の仲間です。障害と書きましたが、障害の定義は実はあいまいです。身体障害は見た目にも明らかのため、その定義も比較的簡単ですが、脳の機能障害となると、当然ながら見た目にも分からないのが難しいのです。ここではそのひとつといわれるアスペルガー症候群(高機能広汎性発達障害, 高機能自閉症)について、少し理解を深めましょう。

2. アスペルガー症候群とは

文部科学省の調査によると知的な発達に遅れはないものの、学習面や行動面で著しい指導の困難性を示す児童が急速に増えており、それは図1に示すように6%を越える数となっています。すなわち、30~40人のクラスでは必ず2人前後の子供が何らかの障害を持っているといえます。この子供たちはいわゆる勉強はできませんが、落ち着かないとか閉じこもるとか、友達とうまく会話ができないので仲間はづれになったり、いじめの対象となったりします。他方、とても記憶力がよい(例えば一目見ただけで、すべて覚えているなど)とか、普通の人ではとても考えられないほど根気強く精密な

作業をするとか、さまざまないわゆる特技を持っていることも多く、それによって、適度にバランスしている場合もあります。したがって、多少変わり者と言われても、中学・高校(あるいは高専)と成績は良いので、大学にも入ってきます。ということで、現在の大学には多数のアスペルガー症候群の人がいるものと推定されています。

3. 身近なひと, 天才なひと

現在の大学と書きましたが、アスペルガー博士が1944年に報告し、アスペルガー症候群と名付ける以前から、この障害を持った人はいました。多くの人はちょっと変わり者という程度でその生涯を終えています。実は天才と呼ばれる人の多くはアスペルガー症候群の定義に当てはまります。発明王エジソンやアインシュタイン、最近ではスピルバーグやビルゲイツなどがそうだとされています。極論すれば、人類はアスペルガー症候群の天才によって進歩発展してきているのです。

しかしながら、図2にアスペ度という表現がありますが、実際には多次元の才能という尺度のそれぞれに異なった要因を持つので、アスペルガー症候群といってもさまざまです。多くのアスペルガー症候群の人はむしろ普通の人以下の才能しか示せず、市井に埋もれて

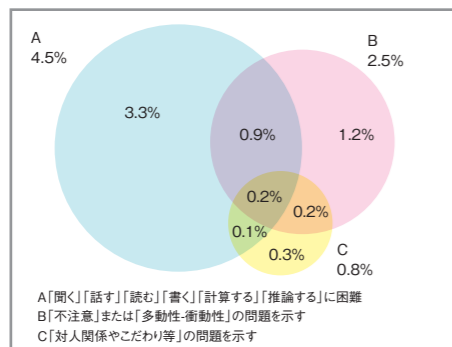
暮らしていると考えられます。上記の天才たちの伝記を読むと、その才能にいち早く気付いた周囲の理解ある人達が彼等を天才へと導いたことが分かります。

現在求められているのは、アスペルガー症候群の人達の才能に気付いて、それを伸ばせる環境です。残念ながら、コミュニケーション障害などのために社会参加ができていないのが現状です。大学(本学)においても例外ではありません。むしろ社会との接点として積極的に支援すべきものと考えます。これを読んでいるあなた自身がアスペルガー症候群かもしれません。となりの友達がそうかもしれません。偏見ではなく、先見の明を期待します。

4. もっと深い理解のために

アスペルガー症候群に関する書籍はたくさん出ています。とりあえず、次の本が分かり易いでしょう。

- 岡田尊司: アスペルガー症候群, 幻冬舎新書
- 福田真也: Q&A 大学生のアスペルガー症候群 ー理解と支援を進めるためのガイドブック, 明石書店



出所: 「今後の特別支援教育のあり方について(中間まとめ)」の「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」調査結果」文部科学省, 2002年

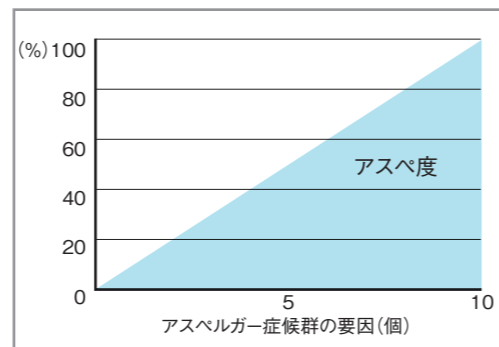


図2 アスペ度(福田真也による)

技大の樹

G I D A I N O K I

[第4回]

ヌマスギ(沼杉)



陸上植物は、コケ, シダ, 裸子植物, 被子植物に分けられます。今回紹介するヌマスギは裸子植物です。種子の元になる胚珠が、被子植物では花の中に保護されますが、裸子植物では裸出しているため裸子植物と呼ばれます。

かつて恐竜の時代、地球は裸子植物の大森林で覆われていました。しかし、その後に進化した被子植物に追われ、現在では被子植物の

28万種に対し、裸子植物は全世界で1021種しかなく、遺存的分布の種が多くなっています。

ヌマスギは毬果類の変り種です。毬果類は松, 杉の仲間です。多くは常緑の針葉樹ですが、落羽松の別名を持つヌマスギは羽状複葉で秋には葉を落とします。駐車場から生物棟へ向う通路脇に四本、植えられています。

トピックス

TOPICS

新着ニュース

- 2010.10.15 駐日バングラデシュ大使が来学されました。
- 2010.10.15 タイ・泰日経済技術振興協会 Paritud氏が来学されました。
- 2010.10.9 メキシコでの日本語弁論大会で本学ツイニング・プログラムの学生が入賞しました。
- 2010.10.9 マレーシアで同窓会とジョイントシンポジウムを開催しました。
- 2010.10.6 第3回 教育活動表彰, 研究・産学官連携活動表彰を行いました。



第2回UKM-NUTジョイントシンポジウム